令和6年度 府立田辺高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（最終評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 生徒一人ひとりを把握し、個に応じた多様で組織的な教育活動を展開する。</p> <p>2 普通科および工業に関する専門学科の併設を生かした、特色ある教育活動を展開する。</p>	<p>昨年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから、コロナ禍を通じて再認識された学校の役割も踏まえ、これまで制限されてきた教育活動については、その必要性を十分に検討した上で、積極的に実施することができた。</p> <p>1 規範意識等に関する取組について 生徒指導部を中心に、身だしなみ指導や遅刻の根絶等、基本的生活習慣の確立に向けた指導を重点的に取り組んだ。今後も、学校生活全体のあらゆる機会を通して、教職員の一致協力指導の下、粘り強い指導を行い、安心して安全な高校生活を送れるよう、規範意識の確立と授業規律の徹底に基づく教育環境を整備する必要がある。</p> <p>2 進路指導・学習指導について 進路決定状況は、就職においては、本校の強みを生かし、今年度も内定率100%を達成することができた。進学においては、近年では、総合型選抜、学校推薦型選抜により早期に進路決定する生徒が増加し、高い目標を持ち続けて一般選抜まで粘り抜く生徒は減少傾向にある。学習指導については、日頃よりきめ細かな指導を心がけ、実践してきたが、意欲をなくす生徒も一部出てきており、中途退学及び転学者数の減少には繋がらなかった。今後も、より細やかな指導が求められる。</p> <p>3 部活指導等本校への帰属意識向上 昨年度は自転車競技部が全国大会へ出場し、自動車部がHondaエコマイレージチャレンジ2023で優勝するなど全国で活躍する部を始め、多くの部が熱心に活動している。一方で、部活動加入率は思うように伸びていない。今後、様々な機会でも部活動の意義について理解させ、高校生活のさらなる充実を図りたい。</p> <p>4 地域連携・広報等について 京田辺市と連携協力に関する協定を生かし、工業に関する専門学科と地元企業との連携事業を、工業科全体のものとして実施する中で、生徒の職業観の育成を図ることに大きな成果があった。広報活動では、中学校の進路学習会に参加するなど、本</p>	<p>1 子どもたちの多様な個性と能力を尊重し、愛情や信頼、期待などを土台とした自己肯定感をはぐくむ教育を推進する。また、人権感覚の育成に重点を置くとともに、基本的生活習慣を確立し、生徒が安心して安全な高校生活を送れることができるよう教育環境を整備する。</p> <p>2 放課後を有効活用し、学校生活満足度の向上に向けた取組を推進する。 （1）部活動加入率の増加を目指し、部活動のさらなる活性化を図る。 （2）ICT機器などを積極的に活用し、個別最適な学びと生徒の主体的・協動的な学びを推進するとともに、資格取得に向けた指導や進路指導を推し進める。 （3）面談指導などを充実させ進学・就職ともに強い進路指導体制の構築</p> <p>3 全校体制でICT活用の研究を進め、魅力ある授業を展開し、学習・指導方法及び評価方法の研究を行い、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を推進させ確かな学力を育む。</p> <p>4 地域と連携・協働し、地域創生に寄与する取組を推進する。「地域とともにある学校」としての存在感を高め、心身の健全な発達と帰属意識を醸造し、誇りの持てる高校生活を目指す。</p> <p>5 本校の特色ある魅力的な教育活動についての広報活動を積極的に展開し、正しく、広く理解していただくとともに、保護者、中学校、地域等への広報をより一層推進する。</p> <p>6 上記の項目を推進するため、各分掌・教科の連携を図り、全教職員が一体となる体制づくりを行い効果的かつ組織的な教育活動を実践する。</p>

	<p>校の特色ある教育活動について正しく、広く理解してもらうための取組を継続して実施した。今後さらに魅力ある教育内容の広報活動を積極的に展開し、中学生に選ばれる学校づくりを進めていきたい。</p>	
--	--	--

分掌 教科名	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
副 校 長	組織運営	生徒と向き合った生き生きとした教育活動が行える学校作りの推進	部長会議を中心に連絡・調整を密にした学校運営を進める。	B	B	各種会議等において、学校全体で情報を共有し、組織的な教育活動が実現できるよう綿密な連絡・調整に努めた。 勤務時間管理ソフトによる勤務時間管理やノー残業デーの設定等により、勤務時間の縮減に向けた啓発を行った。 スクール・ミッション、スクール・ポリシーを策定するとともに、それに基づく本校の特色ある教育活動について、担当分掌と検討を重ねながら効果的に情報発信をした。
			適切な勤務時間の管理を行い、総勤務時間の縮減に努める。	A		
		普通科・工業に関する専門学科の特色ある教育活動の推進と広報活動の充実	普通科・工業に関する専門学科の教育内容の更なる改善と充実に努め、地域や地元企業との連携を、より一層推進する。	B	B	
			本校の特色ある魅力的な教育活動について正しく広く理解していただくため、保護者、中学校、地域等への広報活動を更に充実させる。	B		
事 務 部	学校運営	企画、企画、立案及び連絡調整	効果的な学校運営に不可欠な予算執行に係る企画、立案に積極的に関与しこれを実行する。	B		大変厳しい予算の中、昨年に引き続き学校行事も開催でき、授業を基本とする日々の学習活動に支障の無いよう適切な予算執行が出来た。また、工業科に交流アーク溶接機を改修でき、より学習環境の充実に努めた。 施設の安全点検については、定期的に巡回を実施し、安心・安全、学習環境の充実にに向けた取組を行った。 衛生委員会の職場巡視も含めて実施できた。
	文書・情報管理	文書事務の効率化と情報管理の適正化	法令・規定に基づいた事務処理を行い、情報の公開、個人情報の保護を意識した情報管理を行う。	A		
	就学支援	充実した高校生活と希望進路達成に向けた支援	在学中の生徒・保護者への支援策の効果的な紹介	B		
	維持管理及び学校環境の整備	安心・安全、学習環境の充実にに向けた取組	老朽化や緊急性を踏まえ効果の高い改善策の検討と実行	B	B	
			緊急事態発生時に柔軟な対応を行うことで生徒の安心・安全確保に努める。	B		
財務及び会計	効率的な予算執行と適切な会計処理	費用対効果を意識した予算執行体制の確保	B	B		
		適時に必要な予算を担保し、学校運営に携わる	B			
教 務 部	学習指導	組織的な指導による教科指導の一層の充実	授業・考査を適切に計画し円滑に実施する。	B	B	曜日変更や授業変更について、円滑に実施することができた。また、非常勤の先生方への確認等については、今後も丁寧に実施していく。 今年度、公開研究授業を月間で実施。時間割変更等が複雑になったが、一覧表等で明確に示すことはできた。指導力向上を図る取組としてはよかったと言える。ただ、ICTの活用でいえば必ずしも成果があったとはいえないのではないかと。 校務システムについては大きなトラブル
			公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る。	A		
			ICTを活用した魅力ある授業づくりに向けた取り組みを進める。	C		
	情報管理	生徒情報の円滑な管理	校務システムを円滑に運営するとともに、個々の情報の適切な管理を図る。	B		

						ル等はなく円滑に運営・管理ができていた。
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣、学習態度を確立させる指導の充実	身だしなみの指導等において、全教職員が一致した指導を実施する。	B	B	身だしなみ指導については指導強化期間を設定し、授業開始時に一点検を実施した。遅刻指導についても他の分掌の先生方に協力してもらって行うことができた。その後の追跡指導で学期をまたいでしまったことが課題であった。 生徒指導が定まった時には学年部を中心に連携して指導を行った。 学校祭については昨年の反省を生かし、早めに取り組むことができ、文化祭、体育祭とも無事に日程通りに終了できた。生徒会は学校祭で積極的に取り組み、冬季のイルミネーションの計画など熱心に活動できた。 各学年人権学習は準備段階から外部との連携を行い、学年部の協力のもと実施することができた。
			生徒の実態を的確に把握し、授業規律を確立する。各分掌・教科と連携し、生徒指導を実践していく。	C		
				B		
生徒指導部	特別活動	自主性・自発性の育成	田辺高校祭を成功させる。	B	B	身だしなみ指導については指導強化期間を設定し、授業開始時に一点検を実施した。遅刻指導についても他の分掌の先生方に協力してもらって行うことができた。その後の追跡指導で学期をまたいでしまったことが課題であった。 生徒指導が定まった時には学年部を中心に連携して指導を行った。 学校祭については昨年の反省を生かし、早めに取り組むことができ、文化祭、体育祭とも無事に日程通りに終了できた。生徒会は学校祭で積極的に取り組み、冬季のイルミネーションの計画など熱心に活動できた。 各学年人権学習は準備段階から外部との連携を行い、学年部の協力のもと実施することができた。
			部活動を活性化させる。	B		
			生徒会・ボランティア活動を活性化させる。	A		
生徒指導部	人権学習	人権意識の高揚及び実践的態度の育成と人間力の充実	生徒の人権意識の向上と学習の深化・定着を図るため、視聴覚教材や外部講師による講演を通じた人権学習を実施する。	A		
進路指導部	進路指導	希望進路の実現	入学から卒業までを体系的に捉え、一貫した指導の下、学力向上に向けた取組を充実させることで希望進路の実現を図る。進学講習・長期休業中の講習を積極的に実施する。	B	B	各学年とも希望進路の実現を図るため、平常進学講習や長期休業中の集中講習等を中心に進学指導を行うことができた。昨年度まで実施できていなかった1・2年生には、Classiを活用した平常講習を実施した。実施初年度で参加希望者は1年生のみだった。次年度は人数を増やし、さらに充実したものにしていきたい。 将来を見据えた職業観を養う指導に努め、就職模擬面接や模試、セミナー等を通して、系統的に指導することができた。12月末時点で学校就職希望者の就職率は100%である。 生徒の進路決定の一助となるよう適切な時期に保護者向けの進路説明会を行うことができた。
			自己理解を深め、高校生段階での将来を見通した勤労観・職業観を養う効果的な指導を実践するとともに、企業と連携を密にし、就職指導の充実を図る。	B		
			昨年度に引き続き、就職率100%を目標とする。系統的な進路指導となるよう指導の内容については、就職模試や就職セミナー等を通して改善・整理していく。	A		
進路指導部	進路指導	保護者との連携	適切な時期に個別面談や進路説明会を実施することにより、進路決定に向けて、生徒及び保護者との共通理解を図る。 各学年1回以上の保護者説明会を実施する。	A		
教育推進部	広報活動	中高連携と広報活動の充実	中学生・保護者の本校に対する理解や関心を高め、本校への入学希望者を増やすために、学校説明会や学校公開、施設見学、部活動体験を実施する。 工業に関する専門学科に対するより深い理解や関心を高めるため、多岐にわたる教育活動の周知を行	A	A	B

			う。			<p>路決定時期を考慮し、実施日程をさらに検討する必要がある。また、模擬授業や体験授業の内容についても、中学生の要望を取り入れつつ教員の負担を考慮した効果的な形を模索し、本校への関心を一層高めたい。さらに、ホームページで教育活動の発信を続ける中、SNSをどのように有効活用するかについても改めて検討したい。</p> <p>ICT教育推進会議の実施が3回にとどまり、教材研究や授業研究の意見交換、研修会や講習会の案内が十分に進められなかった。今後はICTをより効果的に活用できる教育推進の具体的な方策を考え、共有・実施していく必要がある。</p> <p>新しい図書を選定・配架・購入を計画的に進めるとともに、図書館だよりの発行や図書展示も随時行い、時期に応じた情報発信を行った。今後も継続して、電子書籍のサブスクリプションサービスや新聞データベースの活用方法についても研究し、より居心地の良い図書館環境の整備に努めたい。</p> <p>芸術鑑賞会については、計画通りに実施できた。次年度の演目については複数の業者と検討を行い、決定に至った。</p>
			ホームページの機能の再構築を図るとともに、各種SNS（YouTube, Instagram, TikTok）を有効的に利用し、その活用体制を整え、生徒の活動を学校内外に広く紹介する。	B		
	ICT教育	ICT教育の推進	学習用タブレット端末を活用した教育活動の推進を図るため、教材研究や授業研究の意見交流、研修会並びに、講習会の案内などのマネジメントを確実に進行。		C	
	読書活動	生徒の図書館利用及び読書活動の推進	購入図書及び各種資料の適切な選定と配架を行う。	A	A	
新着図書や思考・読書のきっかけになる本について効果的な情報発信・広報を行う。			A			
図書館が生徒のニーズに応じて機能できるような環境作りに努める。			B			
		視聴覚機器の整備	視聴覚機器を適切に管理する。	B		
	特別活動	芸術鑑賞の実施	芸術鑑賞に関心をもって参加できるよう、事前の取組を工夫する。	B	B	
プログラムの打ち合わせ等を十分に行い、生徒の興味・関心に寄り添った内容にする。			B			
次年度の演目について検討し、適切な時期に決定する。			A			
保健部	健康安全教育の推進	健康な心身の育成	健康診断を全項目受検させ、特に心臓・尿検査について精密検査が必要な生徒を全員受診につなげる。	B	B	
			相談活動（カウンセリングを含む）や来室生徒への保健指導を適切に実施する。	A		
			特別支援教育会議を定期的に行い、特別支援教育の視点を活かした指導を推進する。	A		
		校内美化に対する啓発の促進	日常の清掃活動が円滑に行えるように掃除道具の整備・補充を行う。	A	B	
						<p>健康診断については、一次検査は全員受診できた。異常が見られる生徒には受診勧告をしているが、精密検査が未受験のままの生徒もいる。</p> <p>SCIについては、生徒のみならず、教員や保護者の不安軽減に向けての相談活動を実施することができた。</p> <p>特別支援教育会議では、生徒の心身の健康上への配慮について適切に協議することが出来た。また、支援学校と情報共有し、生徒への対応について相談することができた。</p>

			クリーンキャンペーンや大掃除を定期的実施する。	A		校内美化については、クリーンキャンペーン等を中心に全校体制で取り組むことが出来た。また、学校祭の準備期間においては生徒指導部と協力し、後片付けの方法を改善することができた。しかし、ゴミの分別やポイ捨て等については、あまり改善されていない。
			ゴミの分別推進、ポイ捨ての防止への啓発を促進する。	B		
工業部	工業教育の充実と発展	各学科、ICTを用いて専門科目の学習内容の充実の検討及び、工業科の認知を高める広報。	教育内容の精査、より効果的な実施方法、より教育効果の高い指導体制について具体的な検討を進める。	C	C	検定やものづくり大会において新たな資格の挑戦や、全国大会への出場ができたのは成果としてあげられる。京田辺市との連携事業にも積極的に取り組めた。しかし、工場棟や3棟の各部室における整理整頓や環境整備においては、不要物の撤去や清掃の行き届いていない部分が多く見られる。またICTを活用した授業展開には課題が残る。一枚岩の指導ができる工業科を目指していきたい。
			ICTを活用できるように、教員個々の能力を上げる方法を検討する。	C		
			学校説明会をはじめ、おもしろたのしいモノづくりに触れられる場を整える。	B		
		各種資格・検定等の取得率向上	資格取得や検定の合格に向け、講習会等におけるより効果的に締結すると共に、計画的に実施する。	B	B	
			各種競技会の実施に向けた体制を整備する。	B		
事業所や大学等における、実際の技術・研究に触れる機会の企画及び提供	事業所や大学等における、就業体験や見学会などを企画・立案・実施する。事業所の技術者や大学の研究者による講演や実技指導等を計画的に実施する。	B	B			
第1学年部	学習指導 進路指導	学習環境の整備を行い、学力を向上させる	各教科、教科担当者との連携を密に図り、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と学習環境の整備を行い、学力向上を図る。	B	B	各教科担当と担任とで連携を取り、成績や欠席状況の共有、必要な支援を考えるための担当者会議などを行った。しかし、学習整備を整えるという目標に対しては、各クラスでばらつきがあるように感じたので一貫した指導となるように改善が必要。 進路学習については、校外型ガイダンスなどの行事やLHR内での指導によって、今後の見通しをつけるためのきっかけづくりを行えた。 生徒指導については、人間関係のトラブルが多い傾向にあり、日頃の様子や校内での人間関係の把握など、未然にトラブルを防ぐための対策を今後も講じていきたい。また、身だしなみについては、きちんとできていない生徒が多くみられ
		自身の進路選択を明確にする取組を行う	進路指導部と連携をとりながら、自身の卒業後の進路についての見通しを立てさせ、目標を明確にする。	B		
	生徒指導 特別活動	学習環境の整備、学習態度の育成	各教科、教科担当者との連携を図り、情報共有を密に行う。それに基づいた各生徒への対応と学習環境の整備を行い、学力の向上を図る。授業規律の徹底。	B	B	
		規則を守る自主・自律の態度の育成	社会や学校の規則を遵守させるため、「いつでも本気、いつでも本番」の学年目標を意識させる。学年として一致した指導・対応を徹底して行う。	B		
		配慮を要する生徒への支援	具体的な支援方法を模索・構築し、率先して対応する。関係分掌との連携、要配慮生徒の家庭と連絡を密に行う。	B		

								るため、学年目標と合わせ、今後の本番を見据えた指導を粘り強く行っていく必要がある。
第2学年部	学習指導 進路指導	学習環境の整備を行い、学力を向上させる	各教科、教科担当者との連携を図り、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と学習環境の整備を行い、学力向上を図る。	A	B	B	学習面において、進路を見据えている者と見据えることができていない者で、成績や姿勢が二極化しており、来年度に向けては更なる二極化が進まないように関係の担当者・分掌と連携をとって進めたい。	
		自身の進路選択を明確にする取り組みを行う	進路指導部と連携をとりながら、自身の進路選択に係る目標の設定を行わせ、進路目標を明確にさせる。	B				
	生徒指導 特別活動	規則を守る自主・自律の態度を育成する	社会や学校の規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う。	B	A			研修旅行を含めた特別活動においては非常に積極的に取り組む姿勢が見え、スローガンを意識した行動もできる場面が見られたが、生徒指導は繰り返しの指導が起こるなど、落ち着かない場面も見られた。
		自身の役割を認識し、役割を果たすことができる生徒を育成する	委員会活動、学校行事等における役割、及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさせる。	A				
		配慮を要する生徒への支援	学年スローガン「明日にでも社会に出れる人になろう～伝統の保持と新たな挑戦～」を意識させ、学年で統一した指導を行う。	A		配慮生徒は学年会を中心に共有し、授業担当者と担任の間でも連携をとりながら支援することができた。		
			関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。	B	B			
第3学年部	学習指導 進路指導	学習環境の整備 学習態度の育成	各教科、教科担当者との連携を図り、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と家庭との連絡を密に行う。	B	B	B	各教科、教科担当との連携を図り、情報共有ができ、各生徒(要配慮生徒も含む)や各家庭に必要な指導や対応を行うことができた。また、各家庭に密に連携を取ることで、生徒指導の観点においても、学校と家庭と一致した理解のもと、指導を行うことができた。しかし、身だしなみ指導においては思うような指導ができなかった。	
		進路実現に向けた目標の設定	進路指導部・保護者と連携をとりながら、生徒にどのように生きていくのかを考えさせ、卒業後の進路目標の設定を行わせる。	B				
	生徒指導 特別活動	規則を守る自主・自律の態度の育成	規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う。	B	B			節目ごとに学年集会を開き、統一した目標や意識を持たせることに努めた。
		配慮を要する生徒への支援	委員会活動、学校行事等における役割、及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさせる。	B				
			具体的な支援方法を模索・構築し、率先して対応する。関係分掌との連携、要配慮生徒の家庭と連絡を密に行う。	A				

教科名	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
国語	学習指導	基礎学力と学習習慣の定着に効果的な指導のあり方を模索する。	基礎的な国語力の充実を目指し、家庭学習を促すような課題を課し、提出物を出し切らせるよう指導を積極的に行う。現代の国語・論理国語において単元の教材の中で語彙力を高められるような指導を行う。	B	B	提出物を出し切らせる指導については、きめ細やかに声掛けができています。日々の授業の中で漢字や語彙力の必要性を説き、生徒に力をつけさせている。伝統的な言語に関する体験に関しては、百人一首カルタ大会とその事前の取り組みができた。また、伝統文化体験として、普通科アドバンスコース、スタンダードコースの国語演習選択者を対象に華道体験を行った。少人数の講座であったため1コマの時間で実施でき、好評であった。進路指導と関連して、担当する教員間での連携を密にし、丁寧な打ち合わせをしている。進学補講は演習を中心に行い、実力養成を図っている。ICTを活用した授業に関しては、多くの教員が活用したが、より効果的な授業での活用を目指す必要がある。
			伝統的な言語に関する文化に親しむ態度を育成するための取り組みを行う。	A		
	進路指導	進路指導との連携を意識した授業内容の構築・精選を行う。	長期的な視野に立った体系的な内容の授業構成を行う。	B	B	
			授業と進学補講の内容に関連性を持たせる。	B		
	指導力向上	国語科教員間の連携を密にして知識や指導方法等を共有し、全体的な指導力の向上を図る。	授業を担当する教員によって授業内容の偏りが出ないように、教材や学習課題等をこまめに共有し、授業の進度や定期考査についての打ち合わせを密にする。	B	B	
			ICTを活用した授業を実践する。	B		
地歴公民	学習指導	ICT活用の推進、授業内容の充実を図り、生徒の学習意欲を引き出して、基礎学力を定着させる。	授業の中で意識的に問題提起を行い、生徒に考察させる状況を設定し、発表の機会を多くする等の工夫をする。また、課題を課して、提出することを習慣づけて、学習内容の定着を目指す。	B	B	〔学習指導〕 ICTの活用については、授業担当者で差異がみられる。2年世界史探究（普通科スタンダードコース）については共通教材・共通定期考査になっていない。いずれも、次年度の課題である。 〔進路指導〕 2・3年生の普通科アドバンスコースについては、大学入試問題を解かせたりして実践力向上に努めた。進学補講は希望者が少なく、個別対応になっている。次年度はその数を増加させたい。 〔指導力向上〕 2名の教職員が研究授業をおこない、指導力向上に努めた。評価方法については、意欲的に意見交換をおこなった。
		探究活動の充実を図り、生徒の主体的に学習する態度の涵養し、地理理解と多面的な歴史観を身に付けさせる。	現代社会の諸問題について多面的に捉え、それに繋がる歴史的な背景を理解して主体的に考察して問題解決を図れるように指導を進める。担当教員間の連携を密にして、共通教材の整理を進める。	B		
	進路指導	進路希望実現のための実践力養成を図り、進学補講の内容を充実させる。	講座の特性に応じて体系的な指導を図る。考査問題や演習に工夫を加え、実践力向上を図る。大学入学共通テスト受験者増加と得点上昇を目指す。	C		
	指導力向上	充実した授業展開ができるように、教員間の連携を深め、指導力向上を図る。	教科会議で指導方法や評価方法、教材等の交流を深め、授業への反映を進める。教科内研修を積極的に実施して、学習指導等に活かす。	B		
数学	学習指導	各生徒の基礎・基本の学力を定着させ、幅広い層の生	基礎問題の演習を中心に授業展開し、各生徒の基礎学力定着を図る。定期的に小テスト、課題等を実施することで	B	B	・講座間で進度、生徒の様子についての共有、担任と細やかな連絡を行いながら丁寧

英語	学習指導	基礎学力の向上と主体的学習の確立を図る。	iPadを効果的に利用し、4技能の向上を図る。	B	B	生徒がiPadを使う場面を多く設定するようにした。グループワークや発表での利用等、より効果的な利用方法を研究したい。成績不振者に対する補充受業を効果的に実施した 進路補講は、意欲的に参加した者にとって一定の効果があった。 iPadを積極的に利用する方向で皆が一致して進んでいる。評価についても評価材料を整えより良い評価をしようと尽力した。
			成績不振者に対する補充受業を充実する。	A		
			ICTを通して、課題を課し学習習慣を身に付けるよう指導する。	B		
			提出物の期限内提出を徹底させる。	B		
進路指導	進路実現に向けた指導を行う。	個々に応じた主体的な取り組みをサポートして、進路補講の充実を図る。	英語検定の受検を促し、合格に向けてサポートする。	A	B	
			ICTを効果的に利用し、「わかる受業」を目指す。	C		C
指導力向上	ICTを効果的に利用し、「わかる受業」を目指す。	ICTを積極的に利用し、活用方法を研修、共有する。	C	C		
芸術	学習指導	芸術的な基礎能力と技術の向上及び学習習慣の確立を図る。	生徒の個性・能力に応じて表現力や基本技能を身につけさせ、様々な表現活動を通して意欲を引き出す。	B	B	それぞれの教科で意欲的に取り組む生徒がいる一方で、計画性がなく、遅刻や欠席が目立つ生徒がおり、1/5オーバーで不認定となる生徒が例年より多く見られた。基本的な学習規律が確立できており、完成作品や評定平均からも意欲的に学習する生徒が昨年に比べ増えた。前述のような生徒も増えているが、一部の生徒は忘れ物や提出期限を守れない生徒もおり、授業規律の確保が今後の課題。 エアコンを使用する時期は美術/工芸のどちらかが各講座のHR教室と会議室を使用している。道具や作品の管理場所、机が小さいなど美術/工芸の授業には適しておらず、教室移動/使用教室の状況を鑑みた授業内容にせざるを得ない状況。夏場はエアコンが使える教室を美術/工芸の2科目分、固定で割り当てて欲しい。 Wi-Fi設備についても同様に改善を求めたい。 夏休みを中心に芸術系大学に受験希望の生徒に向けて実技指導を行った。
			学習習慣を確立させる。(計画性を持つ・提出期限を守る・忘れ物や遅刻をしない・後片付けをする)	B		
			個々の生徒に心して、放課後等を利用して補習を実施する。	B		
			授業の充実を図るため、施設・設備・機器・用具の整備に努める。	C		
進路指導	個別の能力を一層引き出すために、生徒の演奏・作品発表の場を設けて、進路実現に向けた取り組みを図る。	発表会や校内展示、各種展覧会への出品を積極的に行う。そのための準備や意欲的な生徒のために放課後の指導を行う。	芸術・保育・教育関係などへの進学を希望する生徒に個別の進路指導を行う。	A	B	
			指導内容や評価について芸術4科で連携を取り、ICTの活用を積極的に行いながら指導力の向上を図る。	C		
指導力向上	芸術4科の指導力の向上を図る。	指導内容や評価について芸術4科で連携を取り、ICTの活用を積極的に行いながら指導力の向上を図る。	C	C		
家庭	学習指導	基礎学力の向上と学習習慣の確立を図る。	わかる授業をめざし、教材の工夫や効果的な指導方法を検討する。	B	B	B

			授業に集中できる学習環境をつくり、プリントや課題・作品の提出を粘り強く指導する。	B		れぞれのペースで繰り返し学習ができ、一定の効果が得られた。今後も効果的な指導のための教材を工夫していく。プリントは毎時間提出させ、どの程度記入しているかを確認しながら進めていった。研究会では授業実践事例交流ができ、ICTを活用した授業を検討する上で参考になった。
	進路指導	希望進路の実現に向けた指導を行う。	保育・調理・被服関係の進路を目指す生徒の指導を行う。	C	C	
	指導力向上	分かる授業づくりを目指し、研修を深める。	担当者間の交流を深め、指導方法の改善を図る。	B	B	
			研究会に参加して教育実践に学ぶ。	B		
			ICTを活用した授業を検討し、実践する。	B		
情報	学習指導	情報社会を生きる上で必要となる基礎基本を習得させる。	個人情報の保護管理や知的財産権の順守、ネットマナー、情報モラル等の社会的な常識を習得させる。	B	B	座学と実習（文書処理・プレゼンテーション・プログラミング）を分け、メリハリのある授業を展開することができたが、生徒の興味関心をひくような取組みには至らなかった。また今年度検定試験を受検する生徒がなく、目標としていた積極的な受検に至らなかった。
			ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフト等を用いた実習を通して、パソコンの十分な活用能力を向上させる。	B		
	進路指導	自身の個性や能力を伸ばし、進路実現に向けた各種技術・能力の習得と向上を図る。	生徒の得意な分野を情報の科学によって表現・発信し、自身の個性や能力を客観的に理解させ更なる成長を促す。情報に関する各種資格取得の呼びかけ。特に日本語ワープロ検定試験を積極的に受検させる。	B		
指導力向上	「できた」と実感できる授業を展開する。	毎回の学習や実習を通して、「できた」ことが実感できるような授業を実践する。	C	B		
				B		
工学探究	学習指導	学科の特色を生かし個に応じた指導の推進 新学習指導要領の新観点に対応した指導の確立	生徒の能力や個に応じて補充・補習を行うことで、学科全体の学力の底上げを図る。	B	B	個々に応じた補充・補習を行うことで学力の底上げを図ることができたが、成績上位層の学力を伸ばしきることが難しかった。新学習指導要領に対応した評価方法について、教員の感覚と実際の成績と評価基準に対する差異ができてしまうことへの課題がある。高大連携や、大学見学等の効果もあり、3年生の進路選択として、工学部だけではなく、理工学部や工学デザインといったあらたな選択肢をとる生徒が増えてきている。それに合わせて教員もアンテナを張り巡らせ、柔軟に対応しなければならない。iPad 導入より3年目となり、完成年度になった。科目によりばらつきはあるが、効果的に活用できている。ただ実習室においてWi-Fiが不十分な場所があるので、今後検討してほしい。
			学校内で連携を図りながら新学習指導要領の新観点に対応した生徒の指導方法や評価方法等を、授業を通して確立させる。	B		
	進路指導	理工系の新たな分野に対する進路開拓の取り組みの推進	デザイン系・材料系など、従来なじみのなかった分野と高大連携で関係を密にすることで、生徒の新たな進路への関心を広げる。	A		
			大学の入試に関する情報発信や進路説明会等を通じた情報収集をすることで、進路開拓や新たな入試形態等について、教科間で共有し生徒の進路指導に活かす。	B		
	指導力向上	ICTを活用した指導力向上の推進	iPad による授業やICT 機器の導入により、より効果的な指導方法を検討し、教科間の情報を共有することで指導力向上を図る。		C	
機械	学習指導	基礎学力の向上と定着を図り、専門的な知識・技術を身に付けさせる。	学習習慣を確立させ基礎学力の向上を図ると共に、専門知識・技術を身に付けさせる。	B	B	B

技術		を習得させる。 新学習指導要領の趣旨に沿った指導・実践の推進。	座学・実習はもとより、事業所等での工場見学・就業体験、技術者の招聘等を活用するなど、学習意欲を高めると共に、ものづくりに対する興味・関心を引き出す。	C		出がスタンダードになってきており、課題研究の内容も ICT 機器を用いた題材でおこなうことができた。資格取得については前年度より合格者が少なく、あまり生徒たちの意欲をあげることができなかった。今年度も引き続き京田辺市と京都高等技術専門学校との連携事業は継続でき、来年度もさらに連携を密にしていきたい。
			新学習指導要領の趣旨に沿った、教科指導を実践するとともに、指導と評価の一体化を図る評価方法を推進する。	B		
	進路指導	機械技術科の特色を活かし、希望進路の実現に向けた指導を粘り強く行う。	各種検定・資格の取得を積極的に取組ませると共に、事業所・大学との連携を通して、就職・進学への意識・意欲を高める。		C	
	指導力向上	CTを活用し、視覚的に理解しやすい教科指導・提出物等の指導を推進する。実習服の着こなし指導の徹底。	担当者間の連携を密にし、新学習指導要領に沿った教科指導を実践、改善、発展させ、教科指導の充実を図る。ICT 活用の実践事例等も参考にし、ICT 機器を積極的に授業に導入し、教科指導の充実を図る。 以前より課題であった実習服の着こなしについて、他学科とも協力し、一定の規律を確保する。	B	B	
電気技術	学習指導	工業技術、特に電気技術に対する興味・関心を喚起し、意欲的に学習する態度を身につけさせる。	教育内容の精査、より効果的な実施方法、より教育効果の高い指導体制について具体的な検討を進める。 CT を活用できるように、教員個々の能力を上げる方法を検討する。 産振で配備された機器の取り扱い方や実験モデルなど講習を計画し、実施する。	B	B	新課程の評価の検討が学科全体の教員まで浸透しておらず、評価基準を共通認識するまで至らなかった。 DX研修などを通じて、タブレットの活用に尽力したが、生徒個々の能力を上げるためには、授業を大切にす姿勢を植え付ける努力が必要である。 新しく配備された機器を担当した先生は、ある程度理解されていたが、その内容を他の先生と共有することが困難であった。 資格取得の講習やものづくりコンテストに向けた練習を放課後に積極的に行った。 市と連携した就業体験や企業見学を積極的に、数多く行い、生徒の進路選択に活かせるようにした。
	進路指導	電気技術者としての進路を考えることができ、進路選択ができるようになる。	資格取得や検定の合格に向け、講習会等におけるより効果的に総括すると共に、計画的に実施する。 各種競技会の実施に向けた体制を整備する。	A	A	
	指導力向上	実験実習装置などの教材研究を進める。	事業所や大学等における、就業体験や見学会などを企画・立案・実施する。 事業所の技術者や大学の研究者による講演や実技指導等を計画的に実施する。	A	A	
	学習指導	学力向上を図る。	基本的な生活習慣を定着させ、授業に集中させる。 基礎学力を定着させ、専門的な知識を身につけさせるとともに、新評価と指導の一体化を構築する。	B	B	
	進路指導	個性や能力を伸ばす。	各種検定や資格取得について積極的に取り組ませる。また、各種競技会にむけた指導体制の充実を図る。 最新の技術や研究に触れるため、大学および企業との連携を推進する。	A	B	
	自動車				B	

	指導力向上	わかりやすい授業を展開する。	ICTを活用した授業方法を積極的に模索する。	B	
--	-------	----------------	------------------------	---	--

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果があった） B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）
C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない） D：達成できていない（成果がなかった）

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>○学校が行った評価については、妥当な評価である。具体的方策については、数値目標を設定することで、より明確な指標が設定できるのではないかと。</p> <p>○学校の魅力を発信する手段として、学校公式ホームページの充実に努めたことを評価したい。昨年度までは、Instagram や YouTube 等の SNS を通じて情報発信しているが、公的機関である学校という立場で生徒の動画や写真を公表することに対しては、昨今の SNS のあり方から考えるとリスクを伴う。</p> <p>○中学生対象の学校説明会や部活動体験では、生徒が主体となって運営に参画するようになり、学校の様子がより身近に感じ取ってもらえるようになったのではないかと。次年度以降も継続してほしい。</p> <p>○地域連携の観点からは、京田辺市出身の生徒が減少する中で、外部機関といかに連携していくかが課題になる。今年度実施された工業と京田辺市商工会との連携事業では、地元企業の魅力を伝えるとともに生徒のキャリア発達を促すこともできた。次年度以降は、そうした連携を継続し、さらに小中学校等の地域の教育機関と連携することも検討してほしい。</p>
次年度に 向けた改善の 方向性	<p>○京田辺市との連携を軸とし、近隣の関係諸機関や地域住民、PTA等との連携を強化し、生徒が主体的に取り組む教育活動を展開する中で、魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>○本校の特色ある教育活動について、保護者、中学生、及び地域等に広く正しく理解してもらうために、発信内容と発信媒体・方法を精査し、効果的な広報活動を展開する。</p> <p>○自他を大切にすると人権感覚の育成、及び規範意識の確立に重点を置いた教育活動を継続し、全ての生徒が安心・安全に高校生活を送ることができる教育環境の整備を推進する。</p> <p>○授業におけるICT活用の研究を更に進めるとともに、授業や学校行事、業務改善等に生成AIを生かす取組を検討し、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。</p> <p>○生徒の希望進路実現のため、入学から卒業までを体系的に捉えた一貫した指導を行い、進学・就職ともに強い進路指導体制の更なる充実を図る。</p>